

米国の経常収支赤字の拡大

ポイント① GDP比3%超の赤字

3月23日に発表された2020年10-12月期の米国の経常収支は1,885億米ドルの赤字となり、4四半期連続で赤字幅が拡大しました。経常収支赤字のGDP(国内総生産)比は2013年以降概ね2%前後で安定していましたが、新型コロナウイルスの感染が拡大してから3四半期連続で3%を超えました。

ポイント② 国内景気回復で輸入増大

経常収支を財・サービスの貿易収支、利子・配当などの国際的受け払いを示す一次所得収支、外国人労働者の海外送金、国際支援などの二次所得収支に分けると、図1が示すように、財・サービス貿易収支の悪化が経常収支赤字拡大の主因であることがわかります。また、2018年以降、一次所得収支の黒字は縮小傾向にあります。

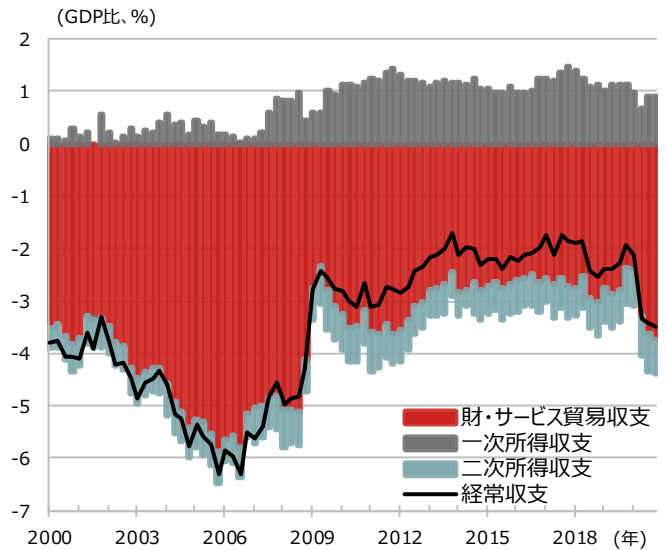
財・サービス貿易収支を輸出入に分けると、図2が示すように足元で輸出入とも回復していますが、金融・財政両面の景気刺激策による米国の国内需要の回復で輸入の増加幅の方が大きくなっています。3月に総額1.9兆米ドルの追加経済対策が成立したことから内需が加速し、輸入が一段と増大して、貿易・経常収支赤字のさらなる拡大が予想されます。

ポイント③ 双子の赤字の懸念

度重なる財政刺激策の発動で米国の財政赤字は大幅に拡大しており、そこに経常収支赤字の拡大が重なると、市場では財政収支と経常収支の「双子の赤字」に対する懸念が高まる可能性があります。現在は米長期金利の上昇を背景に米ドルは全般的に堅調に推移していますが、金利上昇が一服すると、1980年代後半や2000年代半ばのように双子の赤字の下で米ドル安が進むことも考えられます。

図1：米国の経常収支

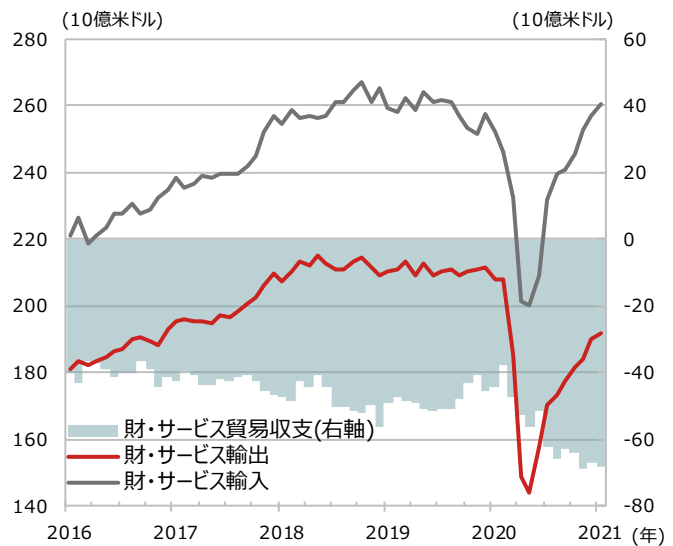
期間：2000年1-3月期～2020年10-12月期、四半期



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国の財・サービス輸出・入、貿易収支

期間：2016年1月～2021年1月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

3月25日
3月26日

米GDP (10-12月期、確報値)
米個人所得、個人消費支出、個人
消費支出デフレーター (2月)、
米財貿易収支 (2月、速報)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。